

町民講座 やぶき寺子屋 (歴史編)

矢吹町の歴史の足跡巡り

平成28年 9月 1日～

矢吹町中央公民館

編 藤田 正雄

矢吹町のあけぼの

1 地形・地質の特徴

矢吹町の地域は、主として300～330メートルの丘頂面をを残す丘陵と、280～300メートルに分布する台地状にある。阿武隈川と隈戸川、その支流に氾濫原の発達もみられる。また低位は、湖沼的環境となり、表面は火山灰層におおわれて矢吹ヶ原の主体をなしている。

水流は低位のため、全体的に草原状で農業立地は畑作が多かった。(羽鳥用水で改善)

2 矢吹地内の遺跡

約115ヵ所 阿武隈川、泉川、隈戸川流域に多い。

3 年代測定「ものさし」

- (1) 地質学研究の成果・放射性炭素法測定
- (2) 遺物、遺跡、文化財の調査分析の成果
発掘、収集、による形式分類・材質分類など

4 矢吹の文化財の時代区分と主な遺跡

時代	西 暦	事 象	中畑地内	三神地内	矢吹地内
先 土 器 時 代	400万年 前	アフリカ猿人 (アウストラロ ピテクス)			
	50万年 前	原人の広がり ジャワ原人・北京原人 ハイデルベルグ人 (ドイツ)			
	15万年 前	旧人 明石原人 (兵庫県) ※異説あり ネアンデタール人 (ヨーロッパ 中部) 牛川人 (愛知県)			
	3万年 前 旧石器時代 後期	新人 クロマニヨン人 (フランス) 周口店上洞人 (中国) 三カ日人・浜北人 (静岡県) 聖岳人 (大分県) 湊川人・山下洞人 (沖縄人)			
	2万年 前	旧石器の初見 岩宿遺跡 関東ローム層 昭和23発見			矢吹最古の人類の 足跡 成田型刃器 (ブレード)
		三城目字陣ガ岡と鏡石町成田の境の風蔵坊 (通称金毘羅山) の石切場で阿武隈川の氾 濫原に突出した丘地郡山層上部の灰白色粘 土層から14点の石器 (頁岩) 出土 昭和22 須賀川市立博物館蔵 類例 ・大平遺跡 (西郷村小田倉) 10万年前 旧石器前期 ・上野出島遺跡 (谷地前C遺跡 東村上野出島) 旧石器前期			
		氷期終わり海面上昇			
	1万3000年前 新石器 縄文草創期	細石器 土器 (縄文、尖底) 弓矢 貝塚出現			

縄文時代	9000年前 縄文早期	竪穴住居 土偶	下荒具 (中畑)	
	6000年前 縄文前期	平底土器 竪穴住居集落 装身具(管玉 勾玉) 木器 櫛 漆	松房池	赤沢 (大和久)
	5000年前 縄文中期	大形土器 立体文様 骨器 石棒 敷石住居 土偶 呪物 抜歯	向原 (松倉)	
	4000年前 縄文後期	磨消縄文 亀棺 箱式石棺 再葬墓	北釜 (中畑)	赤沢 (大和久)
	3000年前 縄文晩期	複雑文様 火焰土器 米づくり	柏山 (中畑)	
弥生時代	2400年前 弥生前期	米づくり 金属器		一本木遺跡 (中畑新田)
	BC 3C 2100年前 弥生中期	弥生式土器 青銅器	愛宕下 (中畑)	赤沢山 (大和久)
	1900年前 弥生後期	鉄器普及 壺形土器 墳丘墓出現 紀元前後 倭人百余国(漢書地理志) 57年 倭汝国王 後漢に朝貢 (後漢書東夷伝) 107年 汝国王 後漢に生口160人 献づる (後漢書東夷伝) 184年 耶馬台国卑弥呼 (魏志倭人伝)	萱山 (中畑)	
古墳時代	200年前期	阿武隈川、泉川沿岸に集中 墳丘を作る 豪族の墓 富の蓄積 : 支配関係の発生 円墳・方墳・前方後円墳・上円下方墳 土師器 埴輪 鏡 玉 剣 石製品 鉄製農機具 集落拡大		

古 墳 時 代	400年 中期	<p>大和勢力の北上 国造 伴造 4世紀中頃 白河国『国造本記』 (東・西白川 石川) 白河国造を置く 大形前方後円墳の出現 大和勢力の拡大 関東地方 須恵器生産 (陶部の渡来) 竈をもつ竪穴住居</p>	<p>太兵久保 (神田)</p> <p>塚原古墳 (中野目)</p>
	500年 後期	<p>墳丘の縮小化 横穴式石室 横穴古墳群</p> <p>645 大化の改新 国造廃止 白河国→道奥国白河郡 道奥国→陸奥国</p> <p>672 壬申の乱</p> <p>689 飛鳥浄御原令 律令政治の始まり</p> <p>694 藤原京</p> <p>701 大宝律令</p>	<p>前谷中 (三城目) 石製模造鏡</p> <p>谷中古墳群 (三城目谷中) 1～3号墳 阿武隈川氾濫原 表土流失 鉄鍬 金原</p> <p>鬼穴古墳群 (神田東) 1～4号墳 埴輪・埴輪 (円筒 形象 鉄鍬 刀子 髷尻 琥珀玉)</p> <p>弘法山古墳群 (奉行塚)</p> <p>館ノ越古墳群 (根宿) 久当山古墳群 (奉行塚)</p> <p>大久保 (中畑) 沼和久古墳群 (明新)</p> <p>堰ノ上 (大和久)</p>
奈良 時 代	710	<p>平城京 (奈良の都)</p> <p>718 養老律令 (養老2年) 陸奥国→陸奥・石城・石背 石背国白河郡</p>	<p>行馬 (中畑)</p>

奈良時代		<p>↓</p> <p>724(神元)までに陸奥に再統合 白河郡 郡衙(郡家) 関和久遺跡(泉崎村) 郡庁院 正倉院</p> <p>728 白河軍団を置く『続日本紀』 1000人</p>	<p>かに沢 (中畑) 工房窯 住居</p>	<p>三峰森 (大和久)</p>	
		<p>769 白河郡 中央の大伴氏の勢力下 靱大伴部継人(ゆきおとものつぐひと) ↓ 靱大伴連(ゆきおとものむらじ)</p> <p>784 長岡京</p>	<p>森郭 (中畑) 古代の「夕」か (籠) 勾玉 刀子</p>	<p>上宮崎 (諏訪の前)</p>	
			<p>国神 (中畑) 管玉</p>	<p>白山 (白山)</p>	
			<p>下荒具B (中畑) 製鉄</p>	<p>下宮崎 (下宮崎)</p>	
平安時代	794	<p>平安京</p> <p>郷戸と「むら」 10棟前後の竪穴住居と掘立柱の高床式建物の集落 郷戸が数戸集まって「むら」形成</p>	<p>寺山 (松倉) 小鍛冶 太子堂 (中畑) 新池原 (松倉) 下荒具 (中畑)</p>	<p>吉作 (三城目)</p> <p>岡ノ内 (神田)</p> <p>乙江沢 (明新)</p> <p>古館 (三城目)</p>	<p>井戸尻 (大和久)</p> <p>山王 (大和久)</p> <p>狐石 (大和久)</p> <p>笹目平 (大和久)</p>
	835	<p>承和2年 白河関()を置く 『類聚三代格』</p>		<p>本城館 (三城目)</p>	<p>芹沢 (柿之内)</p>
	927	<p>延長5年『延喜式』卷二十八 陸奥国 駅馬 雄野、松田、磐瀬… 各十疋 伝馬 白河郡、安積郡… 各五疋</p>			<p>北田 (柿之内)</p>

平 安 時 代	931	<p>小野郷 雄野 → 表郷村か 駅家 松田 → 関和久か 最近 上野出島（東村）説 承平年間（931～37）『和名類聚抄』 「郷」 大村、丹波、松田、入野、鹿田、石川、長田、白川、小野、 （駅家）松戸、小田、藤田、屋代、常世、高野、依上 のち 高野郡 松田、入野、常世、高野、依上（のち常陸国 石川郡 鹿田、石川、長田、藤田 白河郡 大村、丹波、白川、小野、松戸、小田、屋代 （どのあたりか、にわかには比定しがたい） 矢吹地内の「むら」 住居跡をもつ遺跡が多くあり、 中畑地区が松戸郷と比定される？。 東山道の沿線要地か？</p>		
		<p>古代の道 官道 東山道 京～近江（滋賀県）～美濃（岐阜県）～信濃（長野県） ～上野（群馬県）～下野（栃木県）～陸奥・白河郡～中通りを 北上して国府（宮城県多賀城）～胆沢城（岩手県水沢市）一 志波城（岩手県盛岡市） 海道（東海道） 菊田関（ ）～浜通り～国府（多賀城） 北陸道 京一若狭・越前（福井県）～加賀（石川県）～越中（富山県） ～越後（新潟県）～佐渡</p>		
		<p>東山道の道すじ？ 白河関～表郷村～借宿～関和久～松倉～中畑～三城目～成田 ～前田川～芦田塚～中宿～</p>		
	1051～62	<p>永承6～康平5 前九年の役 安倍頼時、貞任×源頼義、義家・清原氏</p>	<p>行方野原合戦 『義経記』</p>	
	1063	<p>石川有光 藤田郷に入る</p>	<p>源氏台頭 阿倍ヶ沢 古戦場</p>	<p>滝八幡社</p>
	1083～87	<p>永保3～寛治元 後三年の役 清原家衡、武衡×源義家・藤原清衡</p>	<p>源氏台頭</p>	<p>明賀の松</p>
	平安末期	<p>「白河庄」 「石川庄」 （貴族の属地） 白河庄 結城氏 安堵 石河庄 石川氏 安堵</p>		

	1143 1188	康治2 文治4 奥羽合戦 藤原清衡・基衡・秀衡・泰衡 藤原泰衡×義経追討 泰衡×源頼朝		鎌倉権五郎景政 景政寺	
	1189	文治5 平泉で頼朝 吉書始 (奥州支配宣言)			
鎌倉時代	1192	鎌倉幕府 成立 関東武士団の支配はじまる 石川庄 石川(河)氏 ← 摂津国 白河庄 結城氏 ← 下総国 好島庄 石城氏 岩崎郡 岩崎氏 伊達郡 中村(伊達)氏 安積郡 伊東氏 ← 伊豆国 岩瀬郡 二階堂氏 ← 鎌倉 長江庄 長沼氏 ← 下野国 行方郡 相馬氏 ← 下総国 会津 芦名氏 ← 相模国	東山道に沿う中畑は、結城白川に属し、のち石川一族の中畠氏が掌握したが結城白川とも通じた(戦国期)	東山道の要地、三城目は、阿武隈川を要し、石川、岩城への分岐として栄え、石川氏、伊東一族中畠氏が領した。	石川一族屋葺(矢吹)氏の領すところとなり石川勢力の要害をなした。 地区内には、結城白川の勢力地もある。
	1236	嘉禎2		景政寺 か書き板碑	
	1261	弘長元 供養塔板碑	寺内阿弥陀堂供養塔		
	1264	弘長4 供養塔板碑		明新 供養碑	
	1331~	元弘元~ 南北朝期 対立続く 結城白川 — 南朝 結城小峰 — 北朝 石川 — 北朝		郷蔵地館 (三城目) 館主不明 タカナシ館(鷹巣館) (本城館) 小松越前守 安積伊東氏 (伊藤)	
室町	1338	延元3 足利尊氏 室町幕府創設 幕府			
		関東公方(鎌倉府) ↓ 戦国騒乱へ	…… 笹川公方(郡山笹川) …… 稲村公方(岩瀬稲村) …… 佐竹、白川、石川、二階堂、	…… 白川氏 …… 石川氏	

		蘆名、田村、岩城、各氏の攻防 伊達氏の南下 伊達氏の南奥支配				袖ヶ館 (館山) 石川一族 有光4男基時	
室 町 時 代	1340-45	興国年間	国神館築城	国神館 (国神) 石川一族 石川九郎光幹 のち中島氏	物見館 (須乗) 小針山城守頼廣 築城		
	1346	国神から観音山へ移転		観音山館 (根宿) 隈井氏 中島晴辰	古館 (石崎) 泉川弾正		
	1404	応永11	陸奥諸将一揆契約				
	1467~ 1477 1573	応仁元	応仁の乱 室町幕府滅亡			小松館 (川原) 小松肥前守	
戦 国 時 代	1579	天正7	大和久館 多賀谷氏居城			和田ヶ館 (和田館)	大和久館 (堰ノ上)
	1580	天正8	袴館 大学居城	袴館(西袴館) (大畑) 大畑大学居城	陣ヶ岡館 (陣が岡)	館主不明	多賀谷左兵衛尉 結城白川方
				寺内館 (寺内) 館主不明	沢尻館 (沢尻) 館主不明		
					堤館(業師館) (堤館山) 角田伊賀守		
					明新館 (観音山館・白滝館) 館主不明		
	1583	天正11	観音山館 中島晴辰から 弟晴時へ 晴辰タカナシ館へ	佐久間館 (牡丹平) 佐久間三郎佐衛門尉常秀			

資料 1

石造供養塔婆（板碑）

町内 約56カ所 109基確認（昭和40年ころの調査） 現在不明 多数

1. 板碑を建てる信仰 中世のみの信仰 逆修供養 その背景は…
2. 村落の存在、範囲がわかる。
3. 年号・願文・種子（梵字）祈願建立者名により村落の実態が類推できる。年号で政治勢力範囲がわかる。 北朝年 南朝年
4. 天台・真言宗の影響。信仰文化状況がわかる。
5. 矢吹に多く見られる板碑は、五百川南岸くらいで姿を消す（関東型）。

◎、見かける板碑と集落（中世の集落）

- | | | | | |
|----|-----|-------------|----------------------|-------------|
| 1. | 堤 | 堤中屋敷 | 種子釈迦如来（バク）3 | 紀年不明 |
| | | 堤天子様 | 種子金剛界大日如来（ア） | 紀年不明 |
| 3. | 三城目 | 仮名書き（黙持） | 種子阿弥陀如来（キリーク） | 嘉禎二・1236 |
| | | 三城目中町供養塔 | 種子阿弥陀如来（キリーク） | 正応二・1289 |
| | | 行屋供養塔 | 種子大日如来（ア） | 正和五・1316 |
| | | 本城館供養塔 | 種子 不明 | 嘉歴二・1327 |
| | | 本城館供養塔 | 種子大日如来（ア） | （北）元徳三・1331 |
| | | 景政寺供養塔 | 種子 不明 | （南）元弘元・1331 |
| | | 本城館供養塔 | 種子釈迦如来（バク） | 応安七・1372 |
| | | 三城目供養塔 | 種子大日如来（ア） | 応永三三1426 |
| | | 川原阿弥陀供養塔 | 阿弥陀三尊 浮彫 | 不明 |
| 4. | 中野目 | 中野目阿弥陀供養塔 | 阿弥陀三尊 | 嘉元三・1305 |
| | | | 阿弥陀像 線刻 | |
| | | | 種子 観世音（サ）
勢至（サク） | |
| 5. | 中畠郷 | かなり広い範囲を示す。 | | |
| | | 寺内地内 | | |
| | | 寺内阿弥陀堂 | 種子阿弥陀如来（キリーク） | 弘長元・1261 |
| | | | 観世音菩薩（サ）
勢至菩薩（サク） | |

寺内供養塔	種子不明	(北) 貞和二・1346
寺内天王山供養塔	種子大日如来(ア)	(北) 貞和六・1350
	種子釈迦如来(バク)	(北) 永和二・1376

平鉢地内

平鉢供養塔	阿弥陀如来(キリーク)	(南) 延元四・1337
改刻	種子阿弥陀如来(キリーク)	(南) 延元四・1337

原宿大日堂供養塔	種子大日如来(ア)	年代不明
原宿阿弥陀供養塔	種子不明	年代不明
根宿地内	二基	年代不明
国神地内	一基	年代不明
松倉地内	二基	年代不明

大畑地内

大畑地蔵尊供養塔	種子阿弥陀如来(キリーク)	元亨2・1	1322
大畑家古屋敷供養塔	種子大日如来(バン)		
大畑家供養塔	三尊種子	阿弥陀如来(キリーク)	
		観音菩薩(サ)	
		勢至菩薩(サク)	

6 屋葺 矢葺 矢吹

矢吹西宅地供養塔	一基	種子不動明王(カーン)
----------	----	-------------

7 大和久

山王供養塔	三尊来迎浮彫	年代不明	
山王供養塔	三尊来迎浮彫	部分欠落	年代不明
阿弥陀湯供養塔	三基	三尊来迎浮彫	年代不明
		三尊来迎浮彫	年代不明
		種子胎蔵界大日如来(ア)	年代不明
井戸尻供養塔	一基	種子金剛界大日如来(バン)	年代不明

◎、近世の高度成長は、中世までの遺跡・遺物の破壊を招いた。

山の中にポツンと残る 供養塔

1. 領主の大幅な改廃

- ・石川一統、結城一統 の移転封
- 矢吹氏・中畠氏
- ・郷郎党の土着化

2. 集落の移動

- ・交通路の整備、宿駅 開拓開墾

戦	1573~ 92	天正期の伊達氏 会津蘆名氏と伊達氏の二大勢力 白川、石川、二階堂、田村、 畠山、大内の諸氏が拮抗
	1882	天正10 本能寺の変 織田信長自刃
国	1585	天正13年秀吉 関白となる。
	1587	天正15年12月 秀吉 関東、奥羽の諸大名に 「関東奥令、惣無事令」 =戦い停止命令 伊達政宗 無視する
	1588	天正16 相馬義胤・石川弾正 × 蘆名、佐竹 二階堂、石川、岩城、白川の連合軍の対立 中畠晴辰 泉崎村辺見伊賀守の城攻める
時	1589	天正17 伊達軍 6月 蘆名 攻略 7月 秀吉 上杉景勝、佐竹義重に命じ伊達攻略 伊達の反撃 10月 二階堂 攻略 矢吹薩摩守 11月 白川 降伏 服属 須賀川城代 石川 降伏 服属 12月 浅川 降伏 服属 11月、秀吉 小田原北条攻め 惣無事令に従わず 真田領侵入に対する報復 全国の大名動員伊達氏腰あげず。
代	1590	天正18年 正月 会津黒川城 伊達家七種連歌 (ななくされんが) 『七草を一葉によせてつむ根芹』 白河、石川、岩瀬、安積、安達、田村、(仙道六郡) 会津が 伊達政宗配下となる。= 七草 正月 秀吉 政宗に再度の参陣命令 5月9日 政宗黒川出発 総勢100騎 6月5日着 すでに大勢は決していた。 惣無事令に従わず蘆名を滅ぼしたので 安積、岩瀬、会津の三郡没収

戦

政宗 6月14日小田原出発
6月24日黒川城着
大里城（矢田野伊豆）攻め

||

佐竹氏を背景に挙兵

7月5日 小田原落城

秀吉 関東・奥羽仕置出発

小田原から黒川までの道路、宿駅整備を命じる。

奥州道中（白河まで）

勢至堂峠越えの会津街道（白河街道）整備
道幅3間

行程

小田原 — 鎌倉 — 宇都宮 10日滞在 「関東仕置」

政宗を呼び（7月28日）夫人を人質として京へ

白河 — 長沼城 — 黒川着 「奥羽仕置」

8月6日 7日泊 9日

国

時

小田原不参陣の大名の領地没収

大崎、葛西、白川、石川、田村は領地没収

会津、岩瀬、安積、石川、白川郡 蒲生氏郷領

政宗 米沢へ移封 石川・浅川・矢吹一門は伊達家臣として移住

代

刀狩 館城はすべて取壊す。農民の武器を取上げる。

検地

石高制 ○○石大名

戦国時代の終結

幕藩体制、封建制の基礎

大名統制

新しい中央権力、近世封建の確立

黒川出発 — 田島 — 五十里越え — 京都へ

8月13日

9月

- ・袖ヶ館 廃城 矢吹氏 伊達に随伴
- ・観音山館 廃城 中島晴時は蒲生氏郷の家臣となり天正18年8月九戸一揆で討死
- ・タカナシ館 廃城 中島晴辰は逃走中土民に討たれる

伝 晴辰
墓石
(天開)

戦 国 時 代		<ul style="list-style-type: none"> ・物見館 廃城 小針氏 土着 ・古館 廃城 ・佐久間館 廃城 佐久間氏 土着 		
	1592～	<p>★蒲生氏郷支配（秀吉の腹心・ライバル 伊勢松阪出） 73万石 会津 安積 岩瀬 石川 白河 白河城代 関右兵衛尉一政</p>		
	1594	<p>文禄年中 ・大和久館 二階堂の攻撃で落城 文禄3 蒲生領内検地 石高制</p>	石川郡 明岡 堤 神田 大島 中野目 中島 屋吹	白川郡 松蔵 大和久 三城目
	1596	慶長元		
	1598	<p>慶長3 蒲生氏 宇都宮へ国替え ★上杉景勝 会津入部 120万石 白河城代 芋川越前守正親 秀吉死去(61歳)</p>		中畑新田 村 開村 (白河風土記)
	1600 1601	<p>慶長5 関ヶ原の戦い 大名集団の再編成 慶長6 上杉氏 米沢へ国替え 原宿 ★蒲生秀行 会津入部 60万石 白河城代 町野左近助繁仍(はら)</p>		
1602	慶長7	願正福寺 開基		
江 戸 時 代	1603	慶長8 徳川家康 江戸に幕府 征夷大將軍		
	1605	慶長8		中畑新田 幸福寺 開基
	1608	慶長10		中畑新田 八幡社 中島より勧請
	1614	慶長19 大阪冬の陣		

江	1615	元和元	大阪夏の陣 大阪城落城 豊臣氏 滅びる				
	1616	元和2	家康 太政大臣 死去(75歳)				
	1620	元和6				中畑新田 宿 隆盛	
	1623	元和9	三代将軍 家光			(白河風土記)	
	1627	寛永4	蒲生家廃絶 ★加藤嘉明 入部 40万石 会津				
	戸			白河藩 創設 ★ 藩主 丹羽長重 10万7千石			矢吹町は全村 白河藩領
		1629	寛永6	小峰城修復 白河町割り			
		1633	寛永10				矢吹新田 村 開村
		1635	寛永12	武家諸法度 参勤交代 街道整備 宿整備 本陣 脇本陣 問屋			(会田家文書)
		時	1643	寛永20	丹羽家 二本松へ移封 ★ 藩主 榊原(松平)忠次 入部 14万石		
1644			寛永21	領内支配機構の確立(15条の掟) 奉行 — 代官 — 大庄屋 — 検断 — 庄屋 — 組頭 長百姓 — 本百姓 — 水呑百姓			
1649			慶安2	榊原家 姫路へ移封 ★ 藩主 本多忠義 入部 10万石			矢吹に本 多家別荘 (御殿山)
代			1650	慶安3	慶安検地 新税設定 小物成 — 新付加税 (物成以外) 舛 京舛とする 長さ 6尺3寸=1間を6尺=1間とする 御鷹餌犬 (鷹の餌にする犬を割り当てる) 農家は1匹2分から3分で買って育て納め たが藩は400文しか払わず差は農民負担 御犬米 米1万石につき5石徴収		

江戸		餌犬米 1万石につき5石徴収 城米 1俵 5斗入りとす 欠米 1俵につき 3升~5升 江戸米 1俵につき 5合 白河御倉番給 100石につき米1斗と錢25文 大豆 1石につき2升 山芋 100石につき 代金2分 萱 100石につき16束 蘆 100石につき2束 麻・釘・うつぎ(木釘の材料)・萩(家畜飼料)・鶴羽・鶏羽・筵・無ければ錢換算 課役(普請人足、米だし人足、駄賃馬貸人足池、堤、川普請人足)出なければ錢換算			
	1652	承応元			大和 山王寺 開基
	1660	万治3		神田 慈眼寺 開基	
	1681	天和元 本多家宇都宮へ移封 ★松平(奥平)忠弘 入部 15万石			
	1688	元禄元			4月21日 松尾芭蕉 矢吹宿 泊
	1692	元禄5 松平忠弘 閉門 ★松平(結城)直矩 入部 15万石			
	1725	享保11			大和久村 外 助郷騒動
	1735	享保20	根宿大火 36軒		
	1741	寛保元			大和 日吉神社 勸請
	1742	寛保2 松平家 姫路へ移封 ★松平(久松)定賢 入部 11万石	白河領 松倉	白河領 三城目 明岡	白河領 矢吹 中畑新田 柿之内

	高田藩領 釜子陣屋 支配	越後高田藩領	越後高田藩領	越後高田藩領
江		中畑 大畑	堤 須乗 須乗新田 中野目 神田	大和久
	1748	寛延元	堤 住吉神社 勧請	
戸	1749	寛延2		下の地蔵
	1767	明和4	大畑 住吉神社 勧請	
時	1783	天明3 藩主松平定信 藩政改革 5 定信 江戸城 溜間詰 7 定信 老中首座 8 定信 將軍輔佐(30歳)		奥州街道 松並木 領内2300本
	1789	寛政元 寛政の改革		
代	1793	寛政5 退任 6 藩政改革 二次		
		寛政10 浅川騒動		
	1809	文化6 越後高田藩釜子陣屋支配の 各村は天領(幕府領)となる		
	1811	文化8		水戸街道 常夜燈
	1820	文政3 天領 浅川陣屋支配となる		
	1823	文政6 松平家 伊勢桑名へ移封 ★ 阿部正権 入部 11万石		
	1824	文政7		矢吹宿 大火

江戸	1837	天保8 天領 分割 旗本 松平石見守康濟軍次郎 知行地 5000石 中畑陣屋支配	中畑陣屋支配 中畑 大畑	中畑陣屋支配 堤 中野目 神田	
	1864	元治元 天領支配の変更 塙陣屋支配と 浅川陣屋支配	中畑陣屋跡 二本カヤ	塙陣屋支配 須乗 須乗新田	塙陣屋支配 大和久
戸	1867	慶応3 10月14日 将軍徳川慶喜 大政奉還上表 12月 9日 王政復古の号令	浅川陣屋支配 大畑	浅川陣屋支配 中野目 神田	
	1868	慶応4 1月3日 鳥羽伏見の戦い 戊辰戦争開始 4月11日 江戸城開城 4月23日 東北25藩奥羽列藩同盟 5月3日 越後6藩が加盟 5月4日 会津 二本松 仙台 藩兵矢吹に布陣 白河城奪還作戦 第1次 5・26 敗退 第2次 5・27 〃 第3次 5・28 〃 第4次 6・11 〃 第5次 6・26 〃 6月29日 第6次 7・1 〃 第7次 7・14 最後の攻撃			五本松に 関門 堤村から 郷人夫差 出し 宿営 病院 矢吹宿焼失
代					
明治		9月8日 改元 明治 9月22日 会津落城		榎倉藩16ささげ 大輪準之助 村社勘蔵 三城目に堀農	
	1869	明治2 6月 版籍奉還 8月 白河県			

明		12月 己巳(つちのとみ)の強訴 浅川町組48ヶ村	松倉村 清三郎	三城目村 右衛門	中畑新田 吉 矢吹村 吉五郎
	1871	明治4 廃藩置県 県知事(県令) 権令 権知事 村方三役廃止		澄江寺境内 顯彰法要記念碑	
治	1872	明治5 大区 小区制 区会所の設置 戸長 副戸長 任命	福島県第6大区 第2小区 松倉村 七軒新田村	福島県第6大区 第1小区 三城目村 三城目新田村 須乗村 須乗新田村	福島県第5大区 第5小区 柿之内村 福島県第6大区 第1小区 大和久村
		福島県第5大区 区会所 須賀川 第5小区 区会所 長沼 福島県第6大区 区会所 白河 第1小区 区会所 中新城 第2小区 区会所 蕪内 磐前県第5大区 区会所 石川 第14小区 区会所 川辺	磐前県第5大区 第14小区 中畑村 中畑新田村 大畑村	磐前県第5大区 第14小区 神田村 堤村 明岡村 明岡新田村 中野目村	磐前県第5大区 第14小区 矢吹村 矢吹新田村
時	1874	明治7 大小区制廃止			
		福島県第5大区 第5小区 →福島県第11区 区会所 須賀川 福島県第6大区 第1小区 →福島県第13区 区会所 小田川 磐前県第5大区 第14小区 →磐前県第18大区 第7小区 区会所 石川			
代	1875	明治8 郡区制変更 矢吹の村々すべて 福島県第9区 区会所 矢吹			

資料 3 支配の変遷・併合 2

慶応4年9月改元(明治元)

慶応4年3月 (1868) 4月 8月 12月
 明治2年2月 (1869) 8月
 明治4年11月2日 (1871)
 明治9年 (1876) 8月21日
 明治12年 (1879)
 明治19年 (1886)
 明治22年 (1889) 4月1日

矢吹村						平	磐	矢吹村	郡制	町村制
矢吹新田村	仙	佐	磐	守	白	県	前	5月18日	福	矢吹村
松倉村		久	城	山				福	島	中畑村
十軒新田村		山			河	二	島	6月11日	福	
三城目村			平			本		三城目村	西	三神村
三城目新田村		藩		藩	民	松		6月11日	白	
明岡村		白	民	民					河	明新村
明岡新田村	藩	河		政	政	平	盤		郡	5月18日
柿之内村		民	政	政				柿之内村	岩	広戸村
田内	預	政		取	局				瀬	分
中畑村		取	裁					前	島	中畑村
七軒新田村		締		締				松倉村		
中畑新田村	け							6月11日	西	矢吹村
堤村	伊			白						三神村
沢尻村	達		出	河		県	県		白	
中野目村	陸	黒								
神田村	奥		張	県					河	
大畑村	守								県	郡
須乗村	取	羽								中畑村
須乗新田村	締	藩								
大和久村		民	所			二	福	須乗村		三神村
		政				本	島	6月11日		
		取				松				
		締				県	県			矢吹村

明	1876	明治9 明治天皇東北巡行 地租改正 明治の第1次村合併 村民の自発的動き i 自由民権運動の高まり ↓	松倉村 十軒新田 七軒新田	須乗村 須乗新田 三城目村 三城目新田	6月14日 旧本陣 古川屋 で昼食 矢吹村 矢吹新田 柿之内村 田内
	1878	明治11 4月民会規則 県民会 ー 福島県独自 5月地方三法 ・府県会規則 福島県会 区会・村会 ・地方税規則 ・郡区町村編制法 中央集権体制の地方行政制度の確立			
	1879	明治12 各村に戸長役場			8月7日 古川屋 小休
	1881	明治14 明治天皇東北巡行			10月6日 古川屋 小休
	1882	明治15 自由民権運動の高揚 8年頃から 福島事件 加波山事件 小針重雄(22歳)			幸福寺 小針重雄 えい髪之碑
	1883	明治16 戸長役場の合同 矢吹に「矢吹村外14カ村戸長役場」			
	1886	明治19 合併		明新村 明岡 明岡新田	
	1888	明治21 市町村制 公布			

1889	明治22 明治の第2次合併 全国約7万の村が、1万5000の町村となる	中畑村	三神村	矢吹村
------	----------------------------------------	-----	-----	-----

矢吹ガ原の変遷 と 大規模開墾

矢吹ヶ原 古くは行方野と呼ばれ、中世期から合戦の地として文書・文献に見える。現在の地名で言えば北は須賀川市と鏡石、南は泉崎村、中島村、東は阿武隈川、西は大信、天栄村に及ぶ広大な地域で、近世になって、白河藩領、幕領が錯綜し不毛の地が多く、薪炭、採草の入会地が大部分であった。

この6000ヘクタールの台地状の矢吹ヶ原は総称がなく、北から、六軒原藤沼原、西原、南原、三城目原、八幡原、滑津原と呼ばれ矢吹ヶ原と呼ぶようになったには明治中期からであった。

近代以降の矢吹町の歴史は、矢吹ヶ原の変遷と切り離しては考えられない。

1876 明治9年 第1回明治天皇巡幸 矢吹ヶ原に着目 士族授産→帰農

1880 明治13年 御料地 宮内省御開墾所開設
阿武隈通船 (明河岸 円谷茂平、茂惣平、庄三)
明治13年再開するが、まもなく衰退

1882 明治15年 士族開墾計画 県内に500戸移住

第1期入植 旧武士が中心

入植 八幡原(425町歩)内に

16年 古川甚吾 高田藩釜子陣屋士族
17年 遠藤信道 同 士分
17年 加藤成内 同 士族

十軒原(560町歩)内に

15年 武藤伊左美 二本松藩士族
17年 草野新太郎 高田藩釜子陣屋士族

滑津原

16年 入江新六郎(町野) 会津藩士族 後に矢吹へ

500戸移住とは別に

三城目原

5年 大輪志津衛 棚倉藩士族
村社篤弼 勸蔵 同

1884 明治17年 開墾所規則 ・安積野 ・矢吹ガ原

- 1885 明治18年 宮内省御料局
 官有林地 50余ヶ所 22,000町歩
 明治13年 六軒原 皇宮附属地とする
 明治18年 三城目原 八幡原 御料地とする
 明治20年 十軒原 藤沼原 南原 御料地とする
 その後 貴族に恩恵的貸し下げが行なわれ、開墾に成功すれば払い下げた
 六軒原(鏡石) 岡部長職 子爵
 那須原 三島通庸 子爵
 乃木希典 子爵
 湯ノ河原(石川) 松平頼恵 子爵 など
- 明治18年 大和久村・中畑新田村戸長 星吉右衛門
 県へ 建白書 提出 鶴沼川の水を阿武隈川へ
 自費で測量 図面付き 矢吹ヶ原に水を!
- 1889 明治22年 耕地整理法 (施行 明治33年)
- 1891 明治24年 岩瀬御猟場 設置 5000町歩(民間地含む)
 宮内省主猟局直属 遊猟者は特命(天皇の御沙汰者)
 特許(特に許可者)のみ
 六軒原 三城目原 八幡原 南原
 十軒原 澤井原(石川)
- 1897 明治30年 星吉右衛門 要望書 県へ提出
- 1911 明治44年 入江農場矢吹支場 150町歩
- 1915 大正4年 矢吹原開田計画申請書 提出 福島県南有志
 1916 大正5年 県実地調査 星吉右衛門の建白書構想取り上げ
 1919 大正8年 開墾助成法
 1924 大正13年 矢吹原現地調査 開 田 3500町歩
 用水補給田 1160町歩
 計 4660町歩
- 1925 大正14年 矢吹町奮起開田事業後援会
 鶴沼川疏水開田期成同盟会
 矢吹原開墾期成同盟会 結成して働きかける
- 1926 大正15年 宮内省御猟場廃止 → 国営猟区 遊猟者は料金を払う
- 1934 昭和 9年 一部県に払い下げ 矢吹原修錬農場開設
 昭和10年 岩瀬御料地県に払い下げ

第2期入植

食料増産 農家二・三男の自立

- 1936 昭和11年 開墾事務所開設 開墾本各化 県営開墾始まる
 第1次入植 弥栄 48戸
- 1937 昭和12年
 第2次入植 三神弥栄23戸
 十軒前 7戸
- 1938 昭和13年 弥栄 10戸
- 1939 昭和14年 国営開墾 決定
- 1937 昭和12年 陸軍飛行場 開場
- 1940 昭和15年 熊谷飛行学校矢吹分校
 羽鳥ダム計画 帝国議会通過
- 1941 昭和16年 羽鳥ダム着工
- 1942 昭和17年 羽鳥ダムに朝鮮人労務者
- 1943 昭和18年
 第3次入植 大池 10戸 長峰 9戸
 鏡石 23戸
- 1944 昭和19年 大池 3戸 長峰 5戸
 昭和20年 敗戦 飛行場閉鎖

第3期入植

食料増産 復員兵自立 ダム犠牲者(羽鳥、只見)

1945 昭和20年～

鏡石 10戸 北善郷 17戸
 西原 40戸 北原 11戸
 飛行場跡地 14戸 長峰 4戸

昭和25年 羽鳥ダム工事再着工 宇都宮・宮城刑務所 使役

昭和31年 羽鳥ダム用水 通水
 羽鳥用水によって畑作地帯が水田地帯へと変容

1 敗戦の混乱と民主化措置

昭和21 婦人参政権 昭和22 財閥解体 昭和26 サンフランシスコ
 農地改革 六・三制 講和会議
 日本国憲法 地方自治法 独立国 沖縄は別
 大韓帝国→日本国 日米安保条約

昭和28 町村合併促進法 昭和29 自衛隊発足

2 矢吹の町村沿革

明治9 明治22 明治36 昭和30 平成28年
 明19人口 (1886) (1955) 2010 2016
 7月1日 7月1日

矢吹村				矢 吹 町	
矢吹新田村	矢吹村 1,071人	矢吹村	矢吹町 7,587人		
中畑新田村	309人				
大和久村	319人				
松倉村		中畑村	3,619人	矢 吹 町	
七軒新田村	松倉村 241人				
中畑村	1,164人				
大畑村	114人				
三城目村		三神村	3,740人		
三城目新田村	三城目村 922人				
須乗村					
須乗新田村	須乗村 217人				
神田村	147人				
堤村	119人				
中野目村	148人				
明岡村	188人				
明岡新田村	明新村 明19				
柿之内村	557人			岩瀬郡 広戸村	792人

5,516人

15,738人 18,572人 17,420人

